

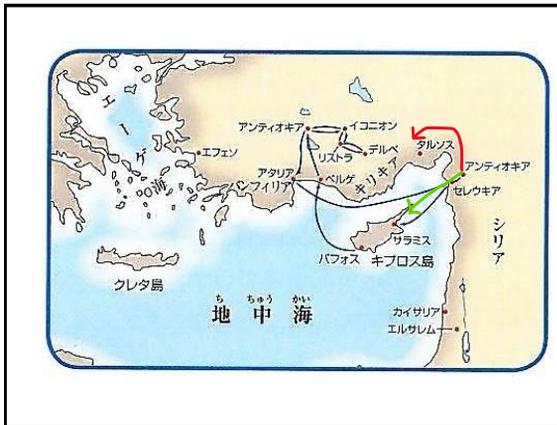
「一難去ってまた一難」

使徒の働き 15章36-41節

1

それから数日後、パウロはバルナバに言った。「さあ、先に主のことばを宣べ伝えたすべての町で、兄弟たちがどうしているか、また行って見て来ようではありませんか。」バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネと一緒に連れて行くつもりであった。しかしパウロは、パンフィリアで一行から離れて働きに同行しなかった者は、連れて行かないほうがよいと考えた。こうして激しい議論になり、その結果、互いに別行動をとることになった。バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡って行き、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。そしてシリアおよびキリキアを通り、諸教会をかつけた。使徒15:36-41

2



3

パウロとバルナバの激しい衝突

- 教会は不完全な者の集まり
- 「工事(回復)中」の罪人の集まり
- 初代教会のリーダーも不完全 聖霊に満ちたパウロとバルナバも(11:24)
- パウロとバルナバの激しい「兄弟げんか」
- 隠しておきたい内容だけ?
- 聖書の聖書らしさ(神の真理と人間の真理)
- 完全な神は不完全な人間を用いることが出来る

4

つまずいても前に進む

- 教会は赦された者の集まり。赦された者として赦し合う
- 互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。エペソ4:32
- パウロとバルナバ、マルコも信仰(教会)をやめなかった。
- つまずいたらひざまずく。ひざまずいていれば、つまずきにくい。
- 「信仰においては一致、意見においては自由、すべてにおいて愛。」というスローガン。

5

つまずいても前に進む

- 愛は、、、人のした悪を心に留めない、、、
1コリント13:5
- 敵の憎しみによって支配されない。憎しみではなく愛を育てる。
- 愛とは善意 全員を愛する。感情、フィーリング、好きになることではない
- 敵を愛せ、敵を好きになれ、ではない。
- 人を相手にするのではなく神を相手にせよ。神といっしょに愛の道を歩む。

6

パウロとバルナバの別れ

- 第一回宣教旅行の時、マルコとを助手として連れて行ったが、マルコは途中で一行から離れてしまった。使徒13:5,13
- 第二回の旅行の時、バルナバはマルコを連れて行こうとしたが、パウロは仕事を途中で投げ出したような者はダメだと主張し、バルナバとパウロは別行動をとることになった。バルナバとマルコはキプロスへ。パウロとシラスは、シリアとキリキアへ。使徒15:37-38
- 教会は新しいリーダーを得て(テモテ)成長し続けた。(問題を神に委ねることによって)

7

マルコの成長

- マルコは成長し、パウロもそれを認めた。ピレモン24、コサイ4:10、2テモテ4:11、1ペテロ5:13
- 私といっしょに囚人となっているアリスタルコが、あなたがたによろしくと言っています。バルナバのいところであるマルコも同じです—この人については、もし彼があなたがたのところに行ったなら歓迎するようにという指示をあなたがたは受けています。コサイ4:10
- ルカだけは私とともにおります。マルコを伴って、いっしょに来てください。彼は私の務めのために役に立つからです。2テモテ4:11

8

バルナバの働き

- エルサレムに着いて、サウロは弟子たちの仲間に入ろうと試みたが、みな、彼が弟子であるとは信じず、彼を恐れていた。しかし、バルナバはサウロを引き受けて、使徒たちのところに連れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に語られたこと、また彼がダマスコでイエスの名によって大胆に語った様子を彼らに説明した。サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の御名によって大胆に語った。使徒9:26-28
- それから、バルナバはサウロを捜しにタルソに行き、彼を見つけて、アンティオキアに連れて来た。彼らは、まる一年の間教会に集い、大勢の人たちを教えた。使徒11:25-26

9

バルナバの働き

- バルナバはパウロとマルコの恩人。
- マルコのためにパウロとのコンビをやめて、マルコと組むことにした。自ら「貧乏くじを引いた」。(スポットライトをパウロに譲った)
- パウロとバルナバは別行動は取るが、同じ目的を果たすために働き続けた。私たちの場合は個人的な感情のために教会を分裂させたり、やめたり、さまたげになるようなことをする？
- 教会に必要なのは、パウロのような人だけではない。むしろバルナバのような人。表には出ないけど陰で教会を支え、他の人々を支え、神のわざに励む人が必要。

10

バルナバの働き

- ヘンデル(1685-1759)のバルナバ
- その才能や成功をねたみ、生涯苦しめた敵ポノンチーニ、最後には和解した。
- マッテゾンという親友、けんか別れしたがヘンデルの曲を評価し、50年以上陰で支えた。
- マッテゾンは、ヘンデルが死を迎えようとしていた時に訪ねてくれた。
- また少年の時に出会い、ヘンデルを励まし、生涯陰で祈ってくれていたキャロライン王女、後にイギリスの王妃となる。

11

一難去ってまた一難

- 世にあつては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。ヨハネ16:33
- バルナバのお陰で、パウロ、マルコという初期の教会のリーダーが育った。
- 新約聖書のマルコの福音書、パウロの手紙も残された！
- あなたのバルナバは？
- あなたは誰のバルナバになれる？
- みんなで「バルナバろう」！

12